

スプレースペース 働き方適正化へ減収計画 のディス

沖繩の子会社で事業領域拡大

空間ディスプレイのスペースは、大幅増収増益となった24年12月期に続く今期、売り上げ規模の拡大よりも「質を高める」（佐々木靖浩社長）経営に転じ

る。併せて中長期的な成長に向けた領域拡大に取り組む。

同社の前期連結決算は、売上高641億円（前期比21・6％増）、営業利益34

億円（35・1％増）となった。積極的な改装が進むSC関連とともにオフィス、ホテルなどが伸びた。「付加価値が理解してもらえようになった」ことに加



佐々木社長

え、23年度にあった貸し倒れ引当金の影響がなかったことによる販売・管理費比率の低下などもあって、営業利益率が高まった。

これに対して、今期は売上高618億円（3・7％

減）、営業利益35億円（3・0％増）と減収増益の見通しを立てている。市場環境は改装需要などで、引き続き活況を呈するとみるが、22年度452億円から25年度までの3年間、5％ずつの増収を継続する中期経営計画の売上高目標を、既に大きく超えたことを踏まえて、ここで「残業抑制を含め、適正な働き方を目指す」というもの。パート

ナー企業から迫られる建設業の時間外労働の上限規制にも対応する。

中期経営計画目標は売上高だけでなく、営業利益率も5・9％と前期で超過達成しているが、「全社員活躍の実現」として掲げた年間所定外労働時間360時間、前期で436時間と乖離があった。「人材あつての事業であり、ここを守りながら成長する」形を整

える構えだ。

一方、中長期的な成長に向けた新たな取り組みも具体化する。スペースベトナムと沖繩スペースの二つの子会社を設けた。

ベトナムは三つ目の海外拠点で、アジアでの事業拡大を目指す。沖繩では、空間作りの機会を拡大するとともに、商業施設運営やイベント運営などに事業領域を拡大する。「全国で行うきっかけ」として育成する。